

震災と弟のこと

小児科 医師 中山 真里子

紫陽花の美しい季節のはずですが…、梅雨冷えという言葉はもう死語?とも感じてしまう真夏日、蒸し暑さにこれからの夏が思いやられる今日この頃です。

3・11から早3ヶ月、復興へ歩み出してはいるものの、原発事故が収束に向かう様子もなかなか見られず、不安といらだちが消えず、平穏な日々が一日も早く訪れてほしいと願うばかりです。

その国民をおいてけぼりに永田町は全く別世界の存在のようです。憤りから失望、政治へのますますの不信、という国民感情を全く意に介さないかの政治家の振る舞いに選挙の重みを感じつつ、“こんな筈じゃない!”と叫んでしまいます。国、国民のことだけを考える政治家はいないのでしょうか、明治維新の時のような…。坂本龍馬なら、今の日本を救ってくれるのでは?と思ったりします。

季節の移ろいの中に、今、例年より感覚が鈍麻し、思考が巡らず、感激、感動が乏しくなり、やるべき事がなかなかできない私があります。年齢のせいばかりでなく、やはり、過日亡くなった弟(4月21日死去、享年50歳、3病院・施設の理事、院長。福島県須賀川市)と、震災が影響しているようです。

遠く離れていてなかなか会えなくても“元気にしてしてくれる”ということだけでよかったのですが、平均寿命の2/3にも満たず、まだ、これからやろうとしていた事も多かっただけに12年前(平成11年10月)の父の死(享年74歳)以上にこたえ、気が付けば思いを巡らせてしまっています。弟の遺体と対面した時、私の口からは“ばか”という言葉しか出てきませんでした。

震災直後、写メールで被害を伝えて来た弟、内容は…人的被害はないが病院建物に被害あり…でした。その後、患者さんをアリーナに避難させたり、被災地区の患者さんを受け入れたり、地震による湖沼決壊から水難者の検屍等々と、これまで以上の仕事量だったに違いありません。遺体と対面しながら、弟と最後に会った日の姿を思い出したり、最後に話したのはいつ?どんなことだったかな?と考えていました。“元気でーす”“がんばりまーす”といういつもメールの最後に記された言葉にすぎる思いで、今は弟の気持ちを察するしかありません。

いつも通りに仕事を終え、昼休み、トイレで倒れていたのを発見された弟、倒れた瞬間、何を思い、考えたんだろうと思うと、出口のない迷路にはまってしまう。死は誰の上にも平

等にやってくるとはいえ、最期の形は様々、でも、人様に迷惑をかけず、苦しまず、コロッと旅立ちたいと思ってしまいます。(ポツクリ寺信仰もうなずけます。)

あとの仕事を受け継いだ下の弟は頼もしくも、苦勞は感じないと言い、何をやっても生きていることが喜びで、楽しくて仕方がないのに、こんなに早く逝った兄がかわいそうで仕方がない、と言ってくれています。残された我々も時の力に任せ、逆らわず、一日も早く、笑顔で、前を向いて心軽やかに、弟の後の分まで、人生を生きたいと思えます。

学習

熱中症とは

昨年は熱中症で救急搬送された方が日本中で54,000人。半数近くが65歳以上の高齢者でした。

主な症状

- Ⅰ度 軽症) ・めまい、失神= 体は熱を下げようとして皮膚の血管を拡張させる。その結果、血圧が低下し、脳への血流が減少して起きる。 筋肉の硬直= 大量に汗をかいた後、水分しか補給しないと血液中のナトリウム濃度が低下し、その状態が続くと手足にけいれんが起きる。
- Ⅱ度 中等症) ・頭痛、吐き気、倦怠感、虚脱感= 大量の汗をかき、血液循環の悪化と血圧低下による。
- Ⅲ度 重症) ・熱射病= 言動がおかしく、呼びかけても返事がない。真っ直ぐ歩けない。体温が40度以上になる。体の機能に障害が起き、汗も出ない状態になる。

発症の条件とメカニズム

- 高温多湿) 気温が高くなると汗をかくことで熱を放散して体温を下げようとしても、湿度が高いと汗が気化、放熱できない。
- 風がない) 皮膚の汗が気化しにくい。よって体温が下がらない。
- 急に暑くなる) 人間は暑い日が続くかと慣れてくるが慣れない前に気温が急に上がったとき、機能が対応仕切れない。

発症する状況・環境

- ・屋外での作業 ・バス待ち ・庭いじり ・散歩 ・海水浴
 - ・山歩き ・ウォーキング ・窓を開め切り蒸し暑い室内
- などなどです。熱中症の予防には、適度の休憩、適度の水分と塩分補給、エアコンの節約もほどほどにということでしょうか。

… … … … … … … … … …

《あとがき》 当院ミニギャラリーは下仲直美さん(小浜市千種)の「押し花」に代わり、6月15日からは杉並淑江さん(元小浜市四谷)の絵画で、90歳~95歳にかけての作品です(昨年96歳で逝去)。ロマンあふれる画風をお楽しみ下さい。